

履物を揃えて、穏やかな気持ちと思いやりの心を育てよう

「はきものをそろえる」

はきものをそろえると 心もそろう
心がそろえば はきものがそろう
ぬぐときにそろえておくと
はくときに心がみだれない
だれかがみだしておいたら
だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと
世の中の人の心もそろうでしょう



この詩は、長野県にある円福寺のご住職だった藤本幸邦[ふじもと こうほう]さんがつくった詩です。履物を揃えるという文化は、いつから日本に根づいたのでしょうか？ また、永平寺の開祖である道元[どうげん]

禅師は、日々の修行の中に「履物を揃える」という行為を組み込みました。履物を揃えることは、「自分自身をみつめる」「自分の行いを振り返る」ということにつながると考えていたようです。

この詩は、何を教えようとしたのでしょうか？ 自分の靴を揃えずに脱ぎっぱなしにするという行動は、後から来る人のことをあまり考えていません。反対に、自分の靴を揃えることができる人は、自分の行動を冷静に考えられ、他の人が乱した靴を黙って揃えることができる人でもあります。このように一人ひとりが自分のことを落ち着いて見つめたり、考えたりして行動することは、とても大切なことです。しかも、他の人のことも考えることができれば、円滑な人間関係を築くこともできるはずです。

環境美化委員会では、「トイレのスリッパを揃えよう！」の取組みに挑んでいます。スリッパに印を付けることで、揃えやすい工夫を凝らしています。スリッパを揃えるというほんのちょっとしたことですが、いつも落ち着いた生活を送るには、このようなことをきちんと行うことが大切だと考えます。子どもたちには、まずは自分の靴をしっかりと揃えることから始めてほしいです。それができたら、自分の物だけでなく他の人が乱した靴を黙って揃えることができる、思いやりの心をもつ人になってほしいものです。

